

会 報

平成15年10月10日

てんりゅう



8月28日春野町に
体験型レストラン
「はるの炭れプラザ」
がオープン



会報てんりゅう 第77号

(社)天竜建設業協会 天竜市二保町鹿島491-5 ☎(0539)26-1562
編集・発行 広報委員会 題字 秋山錠介 FAX(0539)25-6468
電子メールアドレス tenryu@aquan.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>

炭れプラザが春野に 全館オープン

「炭れプラザ」が八月に春野町に全館オープンした。との話を聞き、春野建設事業協同組合が運営する「炭れプラザ」を広報委員が取材しました。

建設関係とは全く違った「炭れプラザ」をオープンさせた動機と今後の展望について夏目広報委員長が西村理事長さんにインタビューしました。

協同組合は昭和四三年に砂利採取事業協同組合としてスタートし、三六年経ちました。コンクリート骨材の供給を手始めに生コンクリートの製造販売・コンクリート積ブロックの製造販売・共同購入を主力事業として業界の需要に対応してまいりました。しかし、ここ数年來の公共工事の減少・工法の変化などにより主力製品の出荷量が激減してきました。組合の今後の経営を考えると先行きに不安を感じ、地域の雇用とともに歩んできた組合として何とか雇用創出を考えなければいけないのではない



ピザ焼きの情景

か、そのためには、産業廃棄物のリサイクル事業についてもその一つとして視野に入れ検討しておりました。予測される投資に対して需要があるのか、採算が合うのか？、いろいろ悩んでおりました。そんな折、三年前の視察地で「製炭炉」にヒントを得て帰ってきました。インターネットで炭についての資料を集め、コンクリートブロックに炭を混入することにより環境保全型製品が出来ることが知り、調湿材等の炭製品から始めようと製炭炉を購入し、間伐材を主体とした製炭をはじめました。

このころ、ブロック事業部でも、二次製品の環境保全型製品を使用するという発注官庁の方針により、炭を混入したブロックの開発に着手しました。初めのうちは炭の混入と製品強度に苦労しましたが、試行錯誤を重ね、面ボラスの「炭れ」ブロックを完成することができました。濡れると紫色に変色するため「炭れ」と商標登録しました。炭の効能で浄化作用

等に効果があり、災害復旧工事への使用を皮切りに町内外に向け営業活動を行ない現在までに八万個出荷することが出来ました。発注機関と協力開発した製品が「炭れ全ボラス」です。現在特許出願中で、水がブロックに混入した炭を通過することが依り水質浄化が増したことが特徴です。従前の面ボラスに代わる製品として使用拡大中で



抱負を語る西村さん

す。

また、安全と工期短縮、建設廃材ゼロを目的に残存型枠の製造も開始しました。当組合の二次製品にはすべて、コンクリートの中に粉炭を練り込み間伐材の利用推進と環境に優しい製品作りをしています。また、県林業技術センターと共同研究を行い、製品の効果を数値で証明するよう試験・施工箇所の追跡調査も実施しています。

こうした炭の魅力と炭れシリーズ製品の効果を多くの方々に知っていただきたいという考えで、全館オープンに先立ち昨年、炭の資料館を建設し、今回は炭れレストランをオープンすることが出来ました。資料の展示をはじめ炭れグッズの販売、炭でろ過した水を使ったコーヒータ、炭入りそばの営業もしております。また、製炭作業場のログハウス建設を契機にビッグボックスの代理店となり従業員自らの手で炭れレストランを完成させることができました。従業員が自分達の手で何でもやれるんだという自信をつかんだことも思わぬ、大きな収穫でありました。また、駐車場通路には炭入りポリラス六角ブロックにより「炭れ」の文字をアレンジしたり、弾性型枠を利用し、ボケットを作り花が植えられた残存型枠を展示したりと、民間の需要を見込んだ製品作りにも取り組んでおります。今後、官民間問わず多くの方々に炭れプラザを訪れていただき、じかに炭の効能を体験していただき、製品を見て、触れてほしいと思います。

そんな思いがみのり八月二十八日には「炭れレストラン」をオープンすることが出来ました。炭れレストランでは、六種類のビザ、四種類のバスタ、手打ちソバをメインとしてメニューを組み立ててい

ます。ビザは、生地を毎日手で打ち、オーソドックスな食材をトッピングしたものから、地元食材（アユ、ヤマメ、しいたけ）を使用し、炭れレストラン独自のビザを石窯で焼いています。私も時には手伝うこともあります。バスタは、料理長が工夫を凝らしたオリジナルのソースをからませたものを提供し、手打ちソバも毎朝打ったものをお出ししています。（炭入りソバ・ビザもあります。）

今後は、お客様の声を聞きながらイタリアンにこだわらずに、よう、自信を持って提供出来る一品料理を徐々にメニュー化していくとともに、今以上にお客様がゆつくりくつろげる雰囲気作りに努力していきたいと考えています。

扱っているグッズ類は、炭製品（脱臭、調湿製品、炭枕）、インテリアの小物、木酢液、燃料炭等の炭に関係するものを主流として特色を出すようにしております。

プラザは、水曜日が定休日
で、営業時間は、十一時から午後二時迄と午後四時二十分から夜の九時まで、お飲み物は、コーヒータ、アイス、ジュース類のほか各種アルコール類もご用意しておりますのでお気軽にお立ち寄りください。

プラザ

☎0539-85-0530

協同組合

☎0539-89-0233



炭れグッズ

建設ギャラリー

工事名/平成14年度(国)362号特定交通安全施設等整備事業工事(歩道設置工)

工事箇所 周智郡春野町堀之内地内
工期 平成14年9月10日～平成15年3月28日
平成15年3月25日～平成15年6月30日
発注者 大電土木事務所
施工者 (株)森下工業

〈工事概要〉 施工延長 L= 98.0m
型鋼橋工 L= 95.0m
路肩舗装工 5箇所
アスファルト舗装工 A= 262㎡
橋り出し歩道工 L= 98.0m

コメント

本工事は(国)362号沿いに組立式の張り出し歩道、路面排水施設等を設置する工事です。道路部分を掘削しての施工のため輸送も狭く交通量も多い(国)362号上での施工は困難な為、河川部分に橋上を行い作業ヤード及び仮設道路を設置しての工事となりました。道路交通安全上の対策としては歩行者、自転車通路を設置し交通整理人の配置を行い対応しました。



リレー「安全バト」⑦

先取りの安全管理

安全指導員 加茂恒夫

月に一度の安全バトロールの際、現場の監督さんにはいつも苦言を呈させていたのですが、同業者である私が指示、指導するのは災害を防ぐ為であり、又偏に皆さんの為と御理解願いたいと思います。

さて、私が、県防災の安全指導員になった10年前は、もたれ式擁壁工などの地山の掘削面の勾配と高さが、設計段階において安全法の規則にそぐわない処が、見受けられましたが、数年前からは、規則に則った勾配が見受けられるようになりました。

又、近年各事業場の皆さんの安全意識の高揚が見受けられますが、まだ、今までに発生した災害が他人事として受け取ったり、日頃発生しているトラブルやちょっとした災害が見過ごされたり、危険を承知で作業

させたりしていませんか。危険が現れ、危険に気付くのはまず現場で働いている皆さんで、危険に対する感じ方は、高所作業等では個々に異なります。安全対策を施せば、その効果は顕著に現れると思います。特にブロック積工等で、高さが2m以上の処で作業する場合、前面に足場が設置出来ない時は、規則を張り安全帯使用で作業することを心掛けて下さい。但し、作業能力が減じられ発注者側に設計上をお願いしたい仮設だとも思います。どうも安全法の規則通りに施工すると安全には経費がかかりますね。最後に繰り返しますが、「先取りの安全管理」で災害防止を。

止を。

止を。

最近のキーワード

「NPO」民間非営利組織・団体

建設業の地域社会への社会貢献が叫ばれて久しいわけですが、ボランティア活動からもう一步、踏み出し組織として継続的な活動をするためのNPO=NON-PROFIT ORGANIZATION、民間非営利組織の立ち上げが議論されています。静岡県内では、グランドワーク三島や富士山クラブによる建設業界の社会貢献が注目を集めています。地元建設企業の中に法人格を取得し、継続的な清掃活動を行っているところもあります。また、当地区では、婦人パワーによる村作り組織「夢未来くん」が有名です。

これまでの個々人のボランティア活動では、組織的な母体がないため、その場その場の対応で終わっていましたが、法人格を取得する事で、事業収益を運営費や人件費に充て、組織として継続的な活動を展開することが出来ます。平成10年12月、「特定非営利活動促進法」が施行された事で、静岡県内でも、認証を受けた団体が15年4月で271団体にのぼり、さまざまな分野で活動を行っています。

建設業の社会参加も、防災訓練など多岐にわたりますが、前面に出る事がなかなか困難になってきているのが現実です。公共事業バッシングの声が大きくなるばかりですが、地域に溶け込み、プロとしての持つ技術、ノウハウを提供する事で、地域のNPOを支援する形もあります。地域の建設組合が母体となって、NPO法人を立ち上げ、公共事業に参加していく、方法もあります。

建設業界の社会的地位の確立に向け、NPO法人の役割はますます高まると思われます。

「ログハウスに恋をして」

最近ログハウス建築の機会にめぐりあいました。日本では皆、メーカー主導のパッケージ住宅を買い求めて、オリジナリティーがいまひとつのような気がしてなりません。ログハウスには、その人の個性が生かされ自分の創造で、物造りが出来ます。出来上がったログハウスを見上げながら、こんな空想をします。森の中に立つ小さなログハウス、小島のさえずりで目を覚まし、テラスでのコーヒーブレイク、小川のせせらぎを聞きながら散歩している自分を。

住まいを持つということは環境そのものだと思えます。特にメーカーが先端技術開発だ、ハイテク強制換気だのと、新建材やシステムの開発をし



事務局だより

○四月からの動き(三)部子定き育む

- 四月
二日 IT委員会開催
十日 自主バトル
二十一日 IT委員会開催
二十四日 五十周年記念誌委員会開催
二十七日 県総会出席
五月
七日 監査会開催

T
·
M

- | | | | | | | | |
|----|---|----|--|----|---|-----|--|
| 七月 | 役員会開催
自主バトリール
バツコン講習開始
九月十三日まで
技士会代議員会
I.T.委員会開催
広報誌七六号発行
金西青年委員会開催
決算総会開催
二十七日・二十八日
足場講習開催 | 八月 | 十日
安全指導員現場見
学会(浜松)
優良主任技術者表
彰及び農林技術講
習会(農林)
入職促進懇談会
五十周年委員会
二十八日
六月
四日
企画青年委員会
五・七日
視察研修旅行
十日
正副会長会議開催
十日・十二日
地山土止講習実施
十一・十二日
足場講習実施
工事現場自主バ
トリール
十二日
除草作業実施打合せ
十七日
記念誌委員会
十八日
優良主任技術者表
彰及び土木技術講
習会(土木)
二十日
五十周年委員会
二十四日 | 九月 | 三日
技士会、技術無料
相談会
四日
自主バト
道路・河川、除草、
清掃奉仕
四日
敬老会開催
十七日
技士会、技術発表会
十八日
建退共説明会
二十五日
刈払機講習会
三十日
県建災防大会
(今後の予定)
十月
二日
合同バトリール | 十一月 | 十日
会報誌、七七号発行
十一日
建設業の適正取引
に関する講習会
(可美運動公園)
創立50周年を盛大に祝います
※場所: グランドホテル浜松
浜松市東伊場一丁目
※日時
・記念式典
十一月七日(金)午後二時か
ら午後三時
・祝賀会
午後三時三十分から午後五
時三十分
※主な次第
・来賓のご祝辞
・感謝状授与
・表彰状授与
・懇談
・アトラクション
※参列者数
約一三〇名
※記念写真の撮影
式典に先立ち天竜建設業協
会会員ならびに賛助会員出
席者の記念写真を撮影します
・会員、賛助会員は午後一時
までに集合ください。
・役員、実行委員は十一時ま
でにお集まり下さい。 |
|----|---|----|--|----|---|-----|--|

Coffee Break



磐田信用金庫豊岡支部

杉浦 摩美

私は磐田信用金庫豊岡支店に勤めています。今年の四月に入庫し、約半年になろうとしています。まだまだ学ばなければならぬ事が多く、一日一日が勉強の毎日です。

仕事にも慣れてきたように思えますが、先輩方に支えてもらいながらの作業なので、一日も早く頼られる方になりたいです。豊岡支

店のみなさんはとても優しく接してくださり、私が困っている時も助けてくれるのでとても心強いです。職場の雰囲気もとてもよく楽しく仕事をしています。今は主に後方事務をしています。ですが、これから少しずつ色々な事を覚えがなくてはならないと思います。

豊岡支店にいらした時は、私の必死な顔を見て行ってください。（左端が私です。）

私は平成五年に結婚し、妻と二人の娘との四人で佐久間町の太井に住んでいました。平成八年、長女の幼稚園入園に備え、同じ町内の芋堀に引っ越して来ました。

その長女愛美（まなみ）は今は小学四年（十歳）に、やうと歩き始めたばかりだった次女亜優実（あゆみ）も小学二年（八歳）になりました。しつかり者の長女は負けず嫌いで、ちよつぱり甘えん坊の次女と性格の全く違う二人で、喧嘩は絶えませんが、看護婦をしている妻が夜勤の時は、娘達が協力して妻の仕事をします。とにかく、いつも大変な仕事だと思っています。

かで、仕事の疲れも一気にふつ飛んでしまいます。

また、休日には家族でドライブするのを楽しみで西へ東へ、南へ北へと、あちこち出掛けています。

二人の娘は、それぞれに将来の夢を語ってくれますが、どんな将来が待ち受けているのか今からとても楽しみにならないうと、負けな強い心を持った素敵な女性になることを期待し、これから頑張っていきたいと思っています。

My Family

水窪開発(有) 木下 孝行



次女の亜優実さん（手前）と長女の愛美さん

道路除草作業を行ないました。

八月は、道路整備月間です。社団法人天竜建設業協会でも例年のとおり会員・賛助会員総出の総数九四名で奉仕作業に取り組みました。本年は、特にNEWわかふじ団体が本県で開催されたため八月二十六日と、九月四日に手分けして実施しました。

それぞれ、天竜協会、佐久間支所、水窪支所、春野建設事業協同組合に早朝から集合し出発式を開催しました。



天竜・龍山地区では秋山協会長・村松技監・野沢維持調査課長の挨拶に続き森下組の柏崎さんの現場制振りの説明があり、暑いなか道具・弁当・お茶持参で一日汗を流しました。ご苦労様でした。

かんとくさん



天竜市土木課 尾口 正樹

今年の四月に人事異動で土木課に配属となりました。

仕事は主に道路の改良、維持、修繕に関する仕事を担当しています。天竜市は急峻な地形が多いため、設計をする際に色々と悩んでしまうことが多いのですが、その分仕事

が完成したときに地元の方から「良くなったね」と声を掛けてもらえる、次も頑張ろうという気持ちになります。

これからは従来の工法にとどまらず、新しい工法や環境に配慮した工法を積極的に取り入れていきたいと考えております。

最後に今年は、台風や大雨により、天竜市でも色々な所で崩土や路肩決壊等が発生しました。その際、業者のみなさまの協力のおかげで早急に復旧することができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。